　自分自身がブレインストーミングとＫＪ法から学んだことは、「なんでもいいから自分の意見を多く述べること」「視野を広く持つこと」である。元々自分は、意見を言うことがあまりなく、他人の意見を聞いて行動するだけであったが、実際に体験してみて、自分で行動を起こさないと、何も始まらないことを知った。また、ブレインストーミングを通して、様々な視野を持つことが大切だと感じた。

　ブレインストーミングとは、議題の中で自由に意見を出し合い、相互交錯の連鎖反応や発想の誘発を期待する技法で、結論を出さない、質より量を重視するなど、とにかく多くの意見が出やすいような最低限のルールしかない。ＫＪ法は、１つのデータにつき１枚のカードに要約して記述し、数多くのカードの中から似通ったものをいくつかのグループにまとめ、それぞれのグループに見出しをつけて図解化または叙述化する方法で、簡単に言うと、集まった膨大な情報を、カードを使ってまとめていく方法である。この２つの方法は、今まで聞いたこともなく、当然したこともなかった。お互いの意見を述べていくと言っても、そう簡単にできるとは思わなかった。しかし、１つ意見を述べてみると、そこから次々に意見がつながって行き、様々なアイデアが集まった。また、「情報光コースの将来」というテーマの中ということを考えると、アイデアはかなり限られていると思っていたが、他人から思いもよらないアイデアが飛び、限られた中で視野を広く持つことの大切さを改めて知った。

　実際にブレインストーミングとＫＪ法を体験して、１人では絶対にできない膨大な量のアイデアが集まりまとめることができた。ただ、それを発表するとなると、結論などの内容構成が難しく、実質１つのアイデアグループしかプレゼンテーションで発表できる」ものではなかった。このことから、「自分の意見は思いついたらとにかく多く言うこと」を、「物事を広く見ること」がどれほど大切なのかが分かった。このことが、自分自身がブレインストーミングとＫＪ法から学んだことと言える。